

2-2 実践基礎～保育という仕事～

講師：東京統括事業本部
東江幸子

保護者支援のポイント

- 1・生活基盤を整える
 - ・生活リズムの確立
 - ・規則正しい食生活の確立
 - ・豊かなあそびの保障

- 2・あそび場の保障とあそびの伝承
 - ・遊ぶ場所の貧弱化
 - ・遊ぶ仲間の減少
 - ・あそび文化の衰退



3・子どもの生活を豊かにするための援助

①発達を保障する子育て支援

②健康的で文化的とは

③地域と家庭への啓もう・・・保育の専門職
として



保護者支援が求められる背景

1・家庭機能の弱まり

- ・就労による社会参加の機会の増大
- ・一人親家庭の増大
- ・一人ひとりの生き方を尊重する社会に志向
- ・子育てを身近に見ることがなく育った親の増加
- ・少子化による子ども同士の育ちあい経験の機会減少 → 不安を感じる親の増加

2・地域の子育て力の低下

→ 社会化の場

保護者への支援

1・家庭養育の主体は保護者

- ・ 保護者と子どもとの間に愛着関係を構築していくことを勧める。
- ・ 子どもと親がともに育ちあう関係をつくる
- ・ 一人ひとりの生きる力を培う
- ・ 地域とつながり、地域の一員となる力を育む



2・ 保育実践で信頼を得る

保育内容の充実

- ・ 保育のねらいと具体的活動を伝える
 - クラスだより・連絡帳など
- ・ 毎日の朝夕の挨拶
- ・ 子ども一人ひとりのエピソードを伝える
- ・ (余裕があれば)写真・動画などあると分かりやすい

3・ 保護者を信頼する

保育所の支援は、子育てを親に代わってするものでもなく、親に責任を問うものでもない。

- ① 子どもは今、どのような思いをしているか
 - ② 親子の絆を強める
 - ③ 保育所の特性を生かした支援の展開
 - ④ 保護者との協働
 - ⑤ 家庭のもつ力を高める
 - ⑥ 保護者の自己決定の尊重
-

4・生活者としての自己を振り返る

子どもを預けて働く生活実態

- ・働きながら子育てするという生活の大変さ、しかし、それをこなす先には子育ての喜びを見出している生き様を理解する。
 - ・働く者として、生活者としての連帯の気持がなければ、苦労を分かり合えることは困難である。
-

5・ 保護者に対して

「安易な気休め」 → 「大丈夫よ、そのうち
出来るようになる」

「抽象的な励まし」 → 「がんばってね！」

「大雑把な言葉」 → 「経験不足」
「愛情不足」

次は、

3-1 安全管理

をご覧ください。